

淡路景観園芸学校の教員、学生ら

花と緑で被災者ケア

あす東日本大震災1年

花と緑に触れることで東日本大震災の被災者に癒やしを感じてもらおうと、県立淡路景観園芸学校（淡路市）の教員や学生らが岩手県内の仮設住宅を訪れ、園芸療法を行った。被災者たちは生け花を楽しみ「久しぶりにたぐさんの花を見た」と笑顔。同校関係者は「今後も定期的に訪問したい」と話している。あす、東日本大震災から1年を迎える。

（後藤亮平）

2月岩手の仮設訪ね交流

園芸療法は花や緑に触れ、活発にするとされる。これ育でること、ストレ 同校景観園芸専門員のスを減らし心身の活動を 天野玉記講師ら7人が2



淡路産ハーブなど使用 定期開催に意欲

月18、19日、岩手県陸前高田市の仮設住宅で、地元住民約30人と交流した。

淡路産のキンセンカなどのハーブを入れたお湯で手を温める「ハーブ手浴」でリラックス。続いて、淡路産のニホンスイセンやロウバイなどを生けた。

同市内はさら地が広がり、花の姿はほとんど見られない。参加者の多くは津波で家を流されており「以前は家で花をいっぱい育てていた。花に元気をもらった」「春を持つてきてくれてありがとう」と喜んでいったという。

同校の園芸療法課程を修了した初山みさきさん（27）は「まだ生活再建が見えない中で、少しの間だけでも楽しんでもらえてよかった」と振り返る。

今回の取り組みを「虹色の種サロン」と名付け、同校は今後も被災地の仮設住宅などを回る計画。天野講師は「復興には5年以上かかるともいわれている。花と緑による息の長い支援を続けていきたい」と話している。

花を生けて笑顔をみせる仮設住宅の住民たち＝岩手県陸前高田市（淡路景観園芸学校提供）